

毎日エコドライブしていますか？ エコドライブ度チェック！



1 おだやかな発進と加速

急発進、急加速は、通常の走行に比べ、きわめて燃費が悪く、さらに車両への負担が大きくなるばかりか、事故にもつながります。低回転域に強いディーゼル車の特性を生かし、グリーンゾーン下限の回転域を使って、アクセルペダルはゆっくり踏み込み、ゆっくり発進、ゆっくり加速を心がけましょう。最初の5秒で時速20kmの緩やか発進をするだけで、約11%程度燃費が改善されます。



6 停止・発進回数の抑制

停止した車両が再度発進するときの加速は、登り坂を走行するのと同じくらい多くの燃料を消費します。つまり、停止・発進の回数をうまく減らすことは、燃料の消費を抑えることにつながります。信号や交通状況の変化など、先を見越した運転で、できるだけ停止・発進の回数が減るよう努力しましょう。

2 早めのシフトアップ

シフトアップせず低速ギアのままでスピードを上げると、エンジンの回転数はどんどん上がり、燃費はその分悪くなります。また、同じ速度であれば、高めのギアで走行する方が燃費が良くなります。エンジンの回転数をおさえ、グリーンゾーンの回転域で早めに高速段のギアに切り替えて走行しましょう。



出典: いすゞ自動車(株)

7 空ぶかしの抑制

トラックは1回の空ぶかして、大型車:10~12cc、中型車:5~7cc、小型車:3~5ccの燃料の無駄づかいをしています。たとえば、大型トラックの燃費が3km/l(1ccで3m走行できる)とすると、1回の空ぶかして、30~36m走行できる燃料を無駄にしていることとなります。日常的に空ぶかしをしないよう、気をつけましょう。

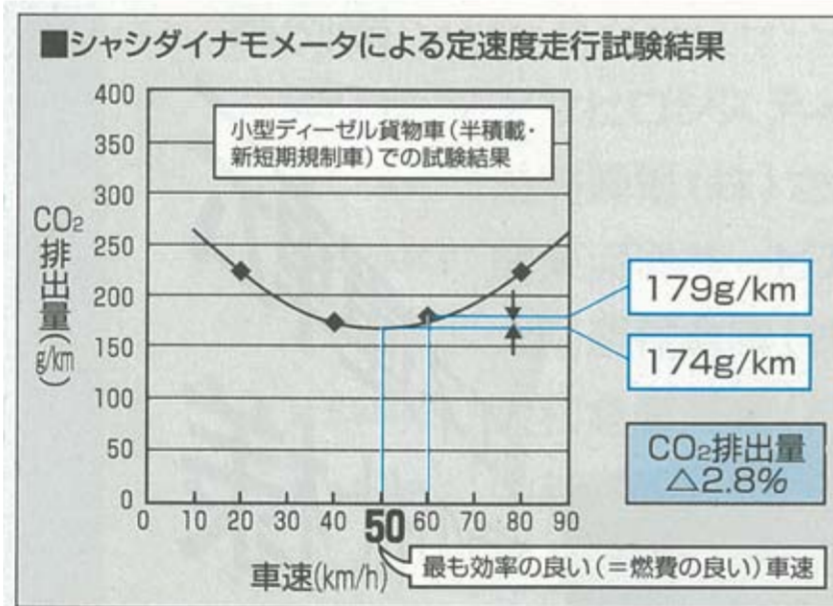
8 必要最小限度のアイドリング

アイドリングでの燃料消費量は、1時間あたりエンジンの排気量の約10分の1です。このように、荷物の積み卸しや休憩時間にエンジンをかけたままにしておくと、燃料の無駄づかいだけでなく、NOxやPMなどの大気汚染物質もその間排出していることになり、環境問題の面からも確実にエンジンをストップさせるよう、心がけましょう。さらに、暖機運転は3分以内とし、冬期でも10分以下に抑えるようにしましょう。



3 定速走行の励行

アクセルペダルとブレーキペダルをパタパタさせるような波状運転は、定速走行と比べて燃費が非常に悪くなります。先をよく見通して予測することで、できるだけ速度を一定に保ち、安全な車間距離を維持できるような運転を心がけましょう。

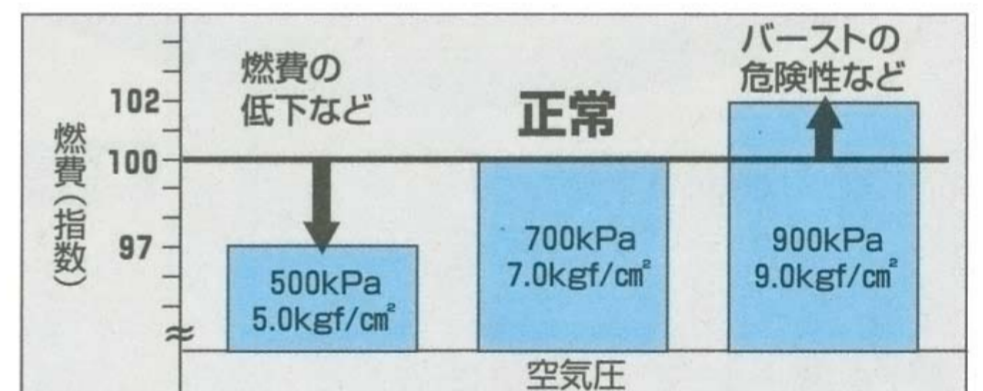


4 エンジンブレーキの多用

ディーゼル車では、走行中にアクセルペダルを離したエンジンブレーキの状態にすると、燃料は噴射されず、つまり消費されず、惰力だけで走行することができます。この惰力走行をうまく取り入れ、必要最小限度のフットブレーキをかけることがエコドライブのこつです。エンジンブレーキを使用して停止すると、大型車で1回あたり20~25ccの燃料消費量の節約になるといわれています。

9 タイヤの空気圧

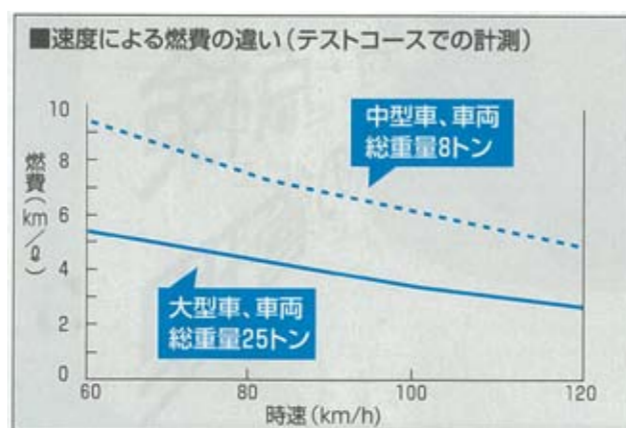
タイヤの空気圧が低いと、燃費は悪くなるといわれています。逆に空気圧が高いと燃費は良くなりますが、バーストなどが起きやすくなり、安全上の問題が生じるようになります。したがって、タイヤの空気圧は常に適正な範囲に維持しておくよう、エアゲージを使うなど、こまめにチェックするよう心がけましょう。



タイヤの磨耗率	新品時	50%磨耗	残溝3.2mm (高速の使用制限)
燃費(指数)	100	105	109

5 経済速度の厳守

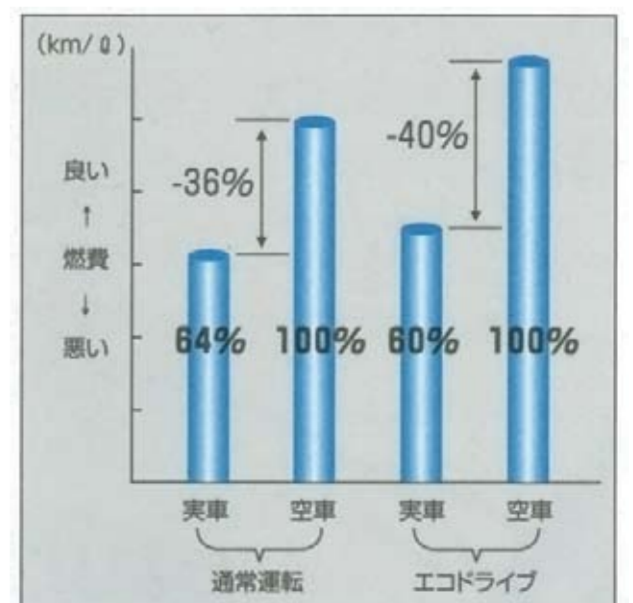
交通の流れを乱さずに、できるだけ低いエンジン回転数で効率よく走行することができれば、走りも燃費もベストな経済速度です。たとえば、経済速度が時速50kmというとき、時速60kmに速度を上げると、燃料消費量は約10%も多くなります。無駄にスピード上げず、高速道路などでも、必ず制限速度を厳守しましょう。



出典: いすゞ自動車(株)資料を参考に作成

10 車両に負担をかけない

100kgの不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪くなります。車の燃費は荷物の重さに敏感です。無駄な機材・資材などは積まないよう、こまめにおろしましょう。また、エアコンやヒーターなども車両に負担をかけ、燃費が悪くなります。過度の使用にならないよう、気をつけましょう。



資料: 社団法人 全日本トラック協会「省エネ運転のススメ」